

◎ハローワールド(小ホール&大講義室)

世界 12 カ国・地域の海外研修員や留学生と交流。内閣府青年国際交流事業や JICA、NGO の国際協力プログラムを紹介した。



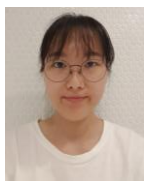
中国(高知大学留学生)
佳木斯大学 李 莹莹(左1)
王 佳琪(左2) 孫 楠(右1)
上海海洋大学 陳 夢云(右2)

色々な質問を受けておもしろかった。中国の文化について再認識するとともに、もっと自国の文化を勉強しないと人に伝えるのは難しいと思った。中国に是非、いらしてください!



フランス ジョナサン(7月~高知県在住)

参加者が注意深く耳を傾けてくれた。自国の紹介は楽しかったが、良いことばかりを話したので、彼らが旅行をして失望しないか心配になった。次回プレゼンの機会があればバランスよく紹介したい。



韓国(高知県立大学留学生) 慶南科学技術大学校
ハ・ウンジュ 日本で韓国を紹介する機会が持ててすごく嬉しい。私も日本人の青少年と直接会って交流することができ、貴重な時間を過ごせた。みなさん、これからも韓国について引き続き関心をもってください。



パラグアイ
JICA 日系研修員 岡辺 豊(左)
高知県日系研修員 田辺 涼子(中)
山本 和也(右)

国旗の色の意味や食べ物、パラグアイに日系人がどのくらいいるのか、などを紹介した。人前で、日本語で話をするのは緊張したが、よい経験になった。少しでも皆の知識になっていけば嬉しい。



ブラジル JICA 研修員 吉田 明(左)
高知県研修員 森岡千恵蔵フェルナンド
ブラジルを知ってもらい、行きたくなるようなプレゼンを心掛けた。国旗の意味や全国で行われているカーニバルを紹介した。高知県のよさこいに似ているカーニバルは、誰でも参加でき、全国各地で踊られている。ブラジルでは 300 円あれば室戸まで行ける。



内閣府「東南アジア青年の船」事業
中島 梓乃(左) 垣内 咲乃

昨年参加した事業の紹介をした。東南アジアに対するイメージが変化したと多くの意見をもらった。将来、挑戦すると語ってくれた子がいたので、嬉しく思った。



内閣府「世界青年の船」(SWY) 事業
飯田 里奈(左) 梅下 麗

生徒や学生に向けて「世界青年の船」事業について紹介し世界への関心を高めてもらった。挑戦することの楽しさや、新たな絵会を知ることの実体験を共有できた。



ブルキナファソ サムバ(JICA 高知大学研修員)

昨年も参加して感じたのは、人生について考える機会を持てるプログラムだということ。ブルキナファソに興味を持ってくれる高校生がいて、とても嬉しい。世界や様々な国を知る良い貴重な時間である。



アメリカ エイドリアーナ(アメリカ在住)

私も他のブースを回りたいと思うほど、みんな楽しそうだった。アメリカの文化などをお話したが、どうすれば自国について上手く紹介できるかを学ぶことができた。いろいろな人と出会えてよかった。



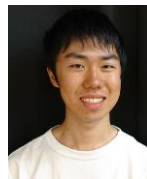
高知大学 棚田 陽香

中国の話がとても印象的で、日本では花火といえば夏だが、中国では冬ということに驚いた。少人数のグループだったので、質問がしやすく、各国に親しみを感じることができた。



高知大学 末宗 桜花

アメリカ人から見たアメリカ各州のイメージなどを聞いて、自国の人の視点でその国を見ることができて新鮮だった。これからはいろいろなことにチャレンジして経験値を高めたい。



高知大学 永谷 太一

各国の素晴らしいプレゼンを通して、海外に行きたい、住みたいと強く思った。特にパラグアイに興味を持った。「東南アジア青年の船」事業の説明を聞いて、2か月の洋上研修体験を私もしてみたいと感じた。



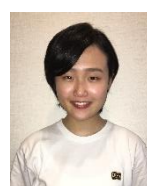
高知県立大学 福岡 銀花

チリやスーダンは普段まったく関わりがないが、説明を聞いて行ってみたいと思うようになった。また、異なる文化を受け入れたり、認め合ったりすることは大切だと改めて感じた。



高知大学 木森 颯斗

社会人と高校生が同じグループにいたので、もう少し進行を上手くできればよかった。留学生のプレゼンテーションがすごく魅力的だった。参加者が徐々に積極的に発言したりするようになって驚いた。



高知県立大学 大崎 日南子

各国の話聞く中で、自分の知識の無さを実感した。外国人青年が日本語で丁寧に自国のことを説明してくれる姿を見て、自分も頑張らないといけないと励まされた。



四万十市議会議員 寺尾 真吾

パラグアイの青年が農業技術(ビニールハウス)を自国に持ち帰ることを活き活きと話してくれた。様々な新しい言葉や意味を学ぶことができた。例えばフェアトレードのロゴの意味や各国の挨拶など。